日本産コウモリに寄生するダニに関する研究¹⁾ I

Listrophoridae (ズッキダニ科) の一新種

Studies on mites associated with bats in Japan. I. Description
of *Alabidocarpus fujii* n. sp. (Acarina: Listrophoridae)

和田 芳 武²⁾

Yoshitake Wada

まえがき

日本産コウモリの外部寄生虫, 特にダニ類の記載は, 現在までに, 山下次郎, 芳賀良一 (1954), 山下次郎 (1954), 斉藤豊 (1955) 等, 若干は行われて来たが, その宿主もかなり限定された種にすぎず, 今まで充分の調査がなされておらず, 体系的にまとめられてはいない. 筆者は, 順次コウモリのダニについて発表する予定である.

Listrophoridae 科のダニの内, Chirodiscinae (=Labidocarpinae) 亜科に属するダニは現在 8 属に分けられ, これらについては Pinichpongse (1963) がまとめているが, これらの大部分がコウモリより見出されている.

筆者は, 東京大学医学部衛生学教室に集められたニホンユビナガコウモリ (*Miniopterus schreibersii niponiae*) 並びに筆者自身が採集した, 同種コウモリの外部寄生虫を調べた結果, 8 匹の宿主より, *Alabidocarpus* 属の新

種のダニ 28 匹を見出したので, 報告する.

なお, 筆者は日本産のこの種のコウモリより, *Spint-runix psi* (Kolenati), *Ichoronyssus* sp., *Neospinolaelaps* sp., *Calcaromyobia* sp., *Pteracarus* sp. さらに *Acaridia* に属する 1 新種を見出している.

この研究にあたり, 懇切な指導を頂いた, 佐々学教授および東京大学医学部衛生学教室の三浦悌二助教授に深謝する. 本種名は, 恩師, 東京大学動物学教室, 藤井隆教授にもとずいて命名した.

Sarcoptiformes 亜目 Acaridia 上団 Psoroptidia 団
Listrophoroidea 上科 Listrophoridae 科 Chirodiscinae 亜科 *Alabidocarpus* ヨコツブレダニ属 (新称)

Alabidocarpus fujii n. sp.

和名: フジイヨコツブレダニ

形態: 雌 (Fig. 1) —— 体長は模式標本で 1075 μ . 副模式標本で 1062 μ , 1049 μ . 体は側面より圧平された形で腹背方向の最大高は, 各々 420 μ , 420 μ , 393 μ (第四脚の位置) である. 後胴体部 (第四脚以後) は全体長の $\frac{1}{2}$ よりわずかに短く, 前体部及び脚は強く角質化し, 茶色に着色している. 角質化していない部分の体表には多数のしわ (annulation 各々背側で 62, 61, 58 本) がある. 前体部を覆う肥厚板 (propodosomal shield) は第二脚前

1) この研究は, 文部省科学研究課題「コウモリに関する生物学的研究」の一課題「コウモリの外部寄生虫の病原性に関する研究」の一部として, 主任研究者, 東京大学伝染病研究所の佐々学教授の指導のもとで行われた.

2) 東京大学伝染病研究所寄生虫研究部
Department of Parasitology, Institute for Infectious Diseases, The University of Tokyo

Fig. 1 *Alabidocarpus fujii* n. sp., ♀ adult Fig. 2 *Alabidocarpus fujii* n. sp., ♂ adult

端の位置まであり，下端はなめらかにゆるい曲線をなし，後方へ突出した感はない．側面後端もなめらかで，わずかに凹んだ感が有るか，真直である．その結果，肥厚板の側面後端と下端は 120° ほどの角度をなしている．

肥厚板の直後に背腹方向に並んで2対の微細毛があり，背と腹の中間の第三脚基節に連なるしわにも，微小な毛が1対ある．又，第四脚基節に連なるしわ上に，体

中央より背寄りに1対の短い毛が，さらに，第三脚前端のわずかに背側に2対（背側の1対は，他の5—7倍の長さあり）の太く長い毛がある．体の後端には3対の毛が背腹方向に並び最中のものが最も長く，腹側のもの約4倍長で，背側のものは微細毛である．体後端の最長の毛は，前述第三脚基節前端位置の長い方の毛の $\frac{2}{3}$ 程度の長さである．第四脚基節間の1対の毛は槍の穂状（刺状

pur like) である.

第一脚は前体部肥厚板の内側に基節が有り末節(毛をつかむ部分)は第二脚のそれより大きい. 第三脚は4節, 末節には溝のある1本の爪と2本の溝のある太いとげ(Spur. 前方のとげは8本, 後方のは6本の溝あり)があり, 第四脚も4節, 末節には溝のある一本の爪と, 1本の溝を6本もつた太いとげがある.

雄(Fig. 2)——体長603, 590, 577 μ で腹背最大高は各々275, 275, 288 μ で, しわは背側で, 34, 33, 34ずつ有る. 後胴体部は全体長の $\frac{1}{3}$ よりわずかに短い. 前体部肥厚板の形状等は雌と大差ないが, 体の後端の三対の毛は, 生殖板のある, 体後端から前方へ向いた, 凹みの内側より生え, 雌ほど長さの差はない. 最中が最も長く, 腹側のものは, 背側のものよりわずかに短い. さらに, 交接の為の凹みの外側で体表のしわ(annulation)のなくなる附近に, 雌にはない2対の微細毛がある. 第四脚基節間毛は, 長い毛である. 第一, 二脚は雌と同じであるが, 第三脚末節の2本の太いとげの溝は, 共に4本, 爪にも溝が雌同様存在する. 第四脚は5本の溝を有する太い爪が1本あり, 爪は溝がなく, わずかに茶色に着色している点が, 雌および雄第三脚の爪が着色していないのと異なる.

以上の所見より, この種は *Alabidocarpus calcaratus* Lawrence, 1952 の記載に似ているが, 次のような点でこれと形態的に区別される. まず, 前体部肥厚板の下後端のなす角度がわずかに *A. fujii* の方がゆるく, Lawrence, の図では *A. calcaratus* は約90°をなすが, *A. fujii* では約120°である. 又, 第一, 二脚末節の後端が *A. calcaratus* ではかなり鋭く突出している(45°以下)のに反し *A. fujii* は90°弱にゆるくかつ丸みがある. 雌では, 第三脚前端位置の長い方の毛(背側)が *A. calcaratus* では体後端の最長の毛(最中)よりわずかに長い程度であるが, *A. fujii* では1.5倍程も有る, 雄では, 第四脚末節の爪の先端部の曲り方が *A. fujii* の方が強く, 長さのわりに太い, 又, 第四脚末節の後方にある方の毛(postero distal)が *A. fujii* の方は爪よりかなり短い.

S. Pinichpongse (1963) による検索表では *A. longipilus* Pinichpongse 1963 に落ちるが, これは *A. fujii* よりはるかに小さく(♀で421 μ), 背側のしわが小なく

(♀49), さらに, 後胴体部も体長の $\frac{1}{3}$ しかない. 背中寄りの第四脚に連なるしわ上の毛が存在しない点でも, *A. fujii* とは区別される.

宿主: *Miniopterus schreibersii niponiae* Thomas (1905) 和名 ニホンユビナガコウモリ

模式標本: 完模式標本は, 宮崎県国富の洞穴より1965年7月16日採集されたユビナガコウモリよりとれた雌で, 国立科学博物館に(NSM-AC-P 280), 副模式標本雌1, 雄2(NSM-AC-P 281, 282, 283)は国立科学博物館に, 雌1, 雄1, は東京大学伝染病研究所寄生虫研究部に保存.

分布: 1965年7月16日宮崎県国富の洞穴より採集した宿主の顔の毛より幼若虫, 成虫を含めて26匹. 1966年2月20日千葉県浜金谷の石切場跡より採集した宿主の顔面の毛より未成熟雌1匹, 1965年7月1日静岡県伊豆下加茂より採集した宿主から未成熟雌1匹.

文 献

- 1) Lawrence, R. F. (1938): A new acarine parasite of bats. *Parasitology*, 30: 309-313. —2) Pinichpongse, S. (1963): A review of the Chirodiscinae with description of new taxa. (*Acarina: Listrophoridae*). *Acarologia*, 5: 81-91, 266-278. —3) 佐々学(1965): ダニ類, 273 p., 東京大学出版会, 東京. —4) Zumpt, F. (1961): The arthropod parasites of vertebrates in Africa south of the Sahara, Volume 1, 312-314 p., The South African Institute for Medical Research, Johannesburg (South Africa).

Summary

A new species of the Listrophorid mites, *Alabidocarpus fujii* n. sp., was found from the Japanese long-winged bat, *Miniopterus schreibersii niponiae*, collected at Miyazaki, Shizuoka and Chiba, Japan. This species is most closely related to *A. calcaratus* Lawrence, 1952, but the two species differ in the shape of propodosomal shield and of tarsi of first and second legs.

According to the key to the species of *Alabidocarpus* by Pinichpongse, this new species falls into *A. longipilus* Pinichpongse, but *A. fujii* is much larger and has minute setae on mid-dorsum at the level of leg IV. Holotype: Female is deposited in The National Science Museum (Zoology), Tokyo, Japan; (NSM-AC-P 280).